

「みどりとふれあうフェスティバル」に出展

[森林整備センター・関東整備局]

「みどりの月間」（4月15日～5月14日）における緑化行事の一つとして、森林・樹木・花などの自然とのふれあいを通じてその恩恵に感謝するとともに、健全な青少年の育成や地球温暖化防止に資する緑化運動を推進することを目的として、「みどりとふれあうフェスティバル（主催：農林水産省・林野庁、東京都、（公社）国土緑化推進機構等）」が令和6年5月11日（土）12日（日）に東京都八王子市の高尾599ミュージアムで開催されました。

森林整備センターは森林保険センターと協力し、森林の持つ公益的機能等に対する理解を深めていただく機会として、「水源林造成事業のパネル展示」と「間伐材を利用したうちわ・コースターづくり」「漢字クイズ」の展示ブースを設けました。

また、当機構3部門（森林総合研究所、森林整備センター、森林保険センター）全てのブースでスタンプを集めた方に、記念品をプレゼントするスタンプラリーも併せて実施しました。

会場が今回初めて高尾山ケーブルカー乗り場にほど近い多目的施設での開催となりましたが両日ともに天候に恵まれ屋外活動に適した過ごしやすい気温でしたので、当日は多くの来訪者で賑わいました。開場直後から終了時間近くまで小さな子供や家族連れ、外国人の旅行者までいろいろな方々が展示ブースを訪れていました。

今後もこのような森林や木に親しむ活動に積極的に参加し、首都圏に住む皆様にも水源林の重要性についてご理解いただけるよう努めていきたいと思っております。



【うちわ・ぶんぶんゴマは間伐材】



【スタンプも利用して自由に描画】



【パネル展示で事業をPR】



【緑の大使も木偏の漢字クイズにご名答！】



【展示ブース（右側が森林整備センター、左側が保険センター）】